

令和8年度実施分
協働事業・市民活動助成事業
公開プレゼンテーション審査資料

(HP掲載用)

目次(プレゼンテーション発表順)

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	市民活動助成		協働	ページ
				スタート	ステップアップ		
1	3回目	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム			○	1
			みどりと花の課				
2	新規	松戸が世界とつながる学びプロジェクト事業	特定非営利活動法人 なかよし学園プロジェクト	○			7
3	新規	ときわだいらレコードセンター事業	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター		○		11
4	新規	松戸・子どもの音楽体験事業	Chloris Music(クロリス・ミュージック)	○			15
5	2回目	矢切地区における子どもの遊び場創設事業	あそびパーク やきりの	○			19
6	2回目	松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業	松戸の地理・歴史探訪調査会	○			23
7	新規	文学を通じて生きがいと豊かな心を育む事業	朗読と文学の会	○			27
8	新規	超高齢化社会に向けての支援活動事業	料親会	○			31
9	新規	Matsudo Tech Lab 先端科学技術振興・啓発事業	松戸ロボット研究会	○			35
10	新規	2050年ゼロカーボンシティ まつどへの機運醸成事業	一般社団法人銀座環境会議			○	39
			環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室				
11	新規	介護予防運動指導者養成事業	クロダマハウス		○		45

No. 1

《 協働事業 》

みんなで育て みんなでつくる
沿道の食べられる景観事業

エディブルウェイプロジェクトチーム

みどりと花の課

事業計画

事業名	みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業
団体名	エディブルウェイプロジェクトチーム
事業担当課	みどりと花の課

事業概要
沿道の住宅や店舗前、地域の拠点、街中のプランターなどで、野菜やハーブなどを育てる「食べられる景観」づくりや、植物クラフト活動を実施する。生活に身近な場所での園芸活動を通じ、住民の交流を促進し、地域コミュニティ向上、地域環境を学び合う場を創出する。

松戸市の課題	社会課題：核家族化、単身世帯の増加などから、近所づきあいなど地域での交流の機会が減少しています。松戸市でも、高齢者の単身世帯が増加しており、地域でのゆるやかなつながりづくりが課題と考えています。 みどりの課題：令和4年に新たな「松戸すみどりの基本計画」が策定されました。「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」がテーマに掲げられています。一般市民の方の生活の中で、みどりを感じられる場面が少ないことが課題と考えられます。本事業では、沿道での景観づくりやクラフトなど園芸活動を通じ、健康・福祉、景観、教育・子育てなど、みどりの機能を、生活に身近な場所で、住民の方と一緒に高め、みどりの活動を通じて、地域でのゆるやかなつながりづくりにも貢献することを目指します。
事業の目的	① 野菜やハーブを用いたユニークな景観づくりを行い、みどりの市民力向上や、みどりのあるライフスタイルの推進に寄与すること。 ② 園芸活動を通じた地域でのコミュニケーション機会の創出から、日常的に挨拶できる近所づきあいを増やすこと。 ③ 園芸活動や植物を使ったものづくりを通じ、地域環境を学び合う機会や、多世代での交流の機会をつくること。
事業内容	①事業内容 （１） 食べられる景観づくり（通年、植え替え：4-5月・9-10月） ・野菜やハーブ、花の寄せ植えにより、食べられる景観づくりをする。園芸活動を通じた、多世代交流を誘発し、顔の見えるつながりづくりに貢献する。 ・植え替え時期に、外部講師を招き、土を入れ替えずに栽培をするリレー栽培講座を開き、見た目も美しく、持続可能な野菜の育て方を学ぶ。（年2回） ・植え替え時期の育苗活動の実施。タネ・苗の配布交換会開催する。（年2回） ・プランター看板の修理、情報の拡充を図り、活動の周知に努める。（年1回） 1. 沿道での食べられる景観づくり ・JR松戸駅から千葉大学松戸キャンパスまでの地域で、沿道の住宅、事業所前の私有地側の空間にお揃いのプランターを設置し、野菜やハーブを育てる。 ・同地域の地域拠点施設（地域包括支援ケアセンター、小規模保育所などを想定）でも、食べられる景観を展開し、みどりのつながりを広げる。

2. まちのプランターでの食べられる景観づくり

- ・みどりと花の課が管理するプランターで、食べられる景観を展開し、地域のみどりのつながりを広げる。
- ・普段の水やりなどの管理は、地域包括支援センター、子ども会、エディブルウェイ参加者などで連携して行う。
- ・月1回お世話会を開催する。植物の世話と、ミニワークショップ実施。植物の使い方、楽しみ方を学び、栽培活動への意欲向上と交流を進める。

3. 市内他地域の地域拠点での食べられる景観づくりの継続支援

- ・2025年度に「みどりの愛護のつどい」の機運醸成を目的とした事業で設置した市内他地域の施設前の食べられる景観づくりの継続支援を行う。

(2) 子ども向けクラフトワークショップの開催（年3回）

- ・外部講師を招き、子ども向けに植物クラフトワークショップを開催し、ものづくりを通じた身近な地域環境の学びと交流の場を設ける。（2回）
- ・みどりと花のフェスティバルに出展し、クラフトワークショップを実施し、クラフト体験の機会の提供と、市内他地域への情報発信を行う。

(3) ハーブクラフト講座の開催（年2回）

- ・外部講師を招き、ハーブを活用した講座を行い、ハーブの使い方、楽しみ方を学ぶことで、栽培活動への意欲向上と交流を進める。

(4) 情報発信

活動の普及・啓発のために、SNS、Web サイトでの情報発信。

(5) 活動レポートブックの発行

協働事業の取り組みをまとめたレポートブックを発行。情報発信ツールとして普及啓発活動に役立て市内他地域への展開支援につなげることを目指す。

想定する配布先	部数
「みどりの愛護のつどい」等で広がった市内拠点施設等 21 箇所	200 部
みどりと花のフェスティバルなど市内のイベント来場者	100 部
エディブルウェイ・まちのプランターメンバー	100 部
活動地域の施設（地域包括支援センター、学童、保育所、店舗等）	50 部
個別の問い合わせ対応	50 部

②スケジュール

	具体的な取り組み	A. 実施体制、B. 対象、C. 場所など
(1) 食べられる景観づくり		
4-5 月・ 9-10 月	1 栽培講座・タネ・ 苗配布交換会、植え 替え活動	A. 外部講師、会員有志、B. EW 参加者、 C. 自治会館又は市民会館（参加費 500 円、 定員 20 名、2 回）
月 1 回 (毎月)	2 まちのプランター お世話会	A. 会員有志、B. まちのプランター、EW 参 加者、C. まちのプランター、自治会館、 毎月管理活動：参加者 15 名程度、収穫試 食会：参加費 200 円・定員 15 名・2 回
12・3 月	(2) 子ども向けク ラフトワークショ ップ	A. 会員有志、外部講師、B. 松戸市民、C. 自治会館または市民会館、有料開催（参 加費 1000 円、定員 20 名、2 回）

	4 月	(2) みどりと花のフェスティバルワークショップ	A. 会員有志、B. 松戸市民、C. 21 世紀の森と広場、有料開催 (参加費 300 円, 定員 30 名, 1 回)
	6・1 月	(3) ハーブクラフト講座	A. 会員有志、外部講師、B. 松戸市民、C. 自治会館または市民会館、有料開催 (参加費 1500 円, 定員 20 名, 2 回)
事業の目標	・食べられる景観づくりでは、沿道の新規参加者 (5 世帯)、地域の拠点施設への展開 (1 カ所以上) を目指す。 ・タネ取り、育苗活動を実施し、植え替え時期に、タネ・苗交換会を開催。 ・まちのプランターでは、月 1 回の活動を実施。多世代にわたる 15 名程度の参加者を目指す。管理活動とワークショップを開催する。 ・ワークショップ、講座には、毎回 20 名程度で、半数は、市内他地域からの参加者となるように、市内他地域へも活動が認知されるよう努める。		
協働の必要性 (団体)	松戸市のみどりを担う課との協働事業として行うことで、地域拠点施設などでも展開することで、地域の緑や、人のつながりはさらに強化できると考えます。令和 6 年度開始のまちのプランターでは、地域包括支援センターや子ども会、地域住民の参加がありました。子どもにとっては、環境教育や、地域環境を学ぶ場として、高齢の方にとっては、外出や、体を動かすきっかけになり、地域のさまざまな世代と交流する機会になっています。つながりが希薄化した地域社会で、つながりづくりに貢献できると期待しています。 令和 7 年度に、「みどりの愛護のつどい」の機運醸成を目的とした、みどりと花の課の事業として、市内の拠点施設前にプロジェクトのプランターを設置し、食べられる景観づくりを開始。これら他地域の活動継続を支援します。 当団体の活動は、松戸市のみどりの基本計画に掲げられた「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」の手法の一つとして、協働事業として行うことで、みどりの基本計画の基本方針に貢献できると考えております。		
協働の必要性 (市)	松戸市みどりの基本計画のテーマである「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」の推進のため、「みどり・人・暮らし」をつなげる実践の場を広げていく必要があります。エディブルウェイプロジェクトチームは、食べられる景観づくりやワークショップを通じた地域のコミュニティづくりに十分な実績があり、新たな地域への活動の拡大を期待しています。		
事業実施の役割 分担	① 団体：プロジェクト地域での事業企画・運営・実施 ② 担当課：活動場所の提供、一部花苗の提供、地域との連携サポート		
今後の展望	令和 7 年度 現・活動地域における地域拠点施設への活動の展開・拡充。まちのプランターの安定した管理・運営活動の仕組みづくり。 令和 8 年度 現・活動地域における地域拠点施設への活動の展開・拡充。まちのプランターの安定した管理・運営活動の仕組み。活動レポートブックを発行し普及啓発活動に努める。 ・事業終了後は、市内各地域での普及活動と立ち上げ支援。 ・市内イベント等で、苗やクラフトグッズの販売、ワークショップ開催などの収益により、活動資金を調達し、活動継続する。		

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 1,283,668	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	イベント(WS・講座)参加費	¥ 135,000	(1)リレー栽培講座500円*20人*2回、収穫試食会 200円*15人*2回 (2)クラフトWS 1000円*20人*2回、みどりと花のフェスティバルWS 300円*30人、(3)ハーブクラフト講座 1500円*20人*2回
	団体拠出金	¥ 6,280	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 141,280	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 641,280	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 240,000	講座外部講師謝礼金 (30,000円*6 回)、レポートブック用まちのプランター活動・ワークショップ撮影謝礼 (5,000円*12回)
	消耗品費	¥ 188,500	[食べられる景観づくり] ・土再生材 10kg (6000円*1個) ・ミミズ堆肥 5kg (1000円*6個) ・元肥 (600円*5個) ・培養土40L (1400円*10個) ・野菜苗 (育苗が困難な種類・沿道プランター25個*2期、まちのプランター25個*2期) (300円*100個) ・果樹苗 (5000円*1個) ・まちのプランター資材一式 (支柱、ネームタグ、紐など) 5000円 ・タネ (300円*20個) ・育苗用資材一式 (育苗ケース・ポット・用土など) (5000円*2回) ・サイン修理・材料一式 3000円 ・ラミネートシート 3500円 ・布製プランター (500円*20個) ・プランターロゴ印刷シルクスクリーン版 (3000円*2個) ・シルクスクリーンインク (3000円*2個) ・試食会材料 (5000円*2回) [クラフト] ・クラフト材料費 (クラフト素材、道具類) (5000円*3回) ・ハーブクラフト材料費 (花材等素材、道具類) (10000円*2回) [活動全般] ・参考書籍 (クラフト・園芸福祉活動等) (2000円*5冊) ・まちづくり絵本 (2000円*5冊) ・文具類一式 (付箋、封筒、コピー用紙等) 5000円 ・園芸道具類一式 (養生シート、移植ゴテなど) 5000円
	食糧費	¥ 14,400	・参加者お茶代 (まちのプランター活動12回+ワークショップ・講座6回*20人分 (1 回800円))
	印刷製本費	¥ 92,700	・チラシ印刷費 (A4両面カラー15円*100部) *6回 ・資料コピー代 (10円*30枚*16) ・活動レポートブック印刷費用 (A5カラー32ページ500部*157.8 円)
	使用料及び賃賃料	¥ 45,280	・自治会館 (講座・育苗会 計16回*1600円) ・チラシ、レポートブックデザイン・編集ソフト利用料 (3,280円/月*6ヶ月)
	保険料	¥ 2,000	キッズクラフトワークショップ保険料 (1000円*2 回)
	通信運搬費	¥ 4,400	切手代 (メールなし110円*20世帯*2回)
	対象経費の合計 (E)	¥ 587,280	
(その他経費)	食糧費	¥ 18,000	お弁当代 (1 日通し植え替え/WS 600円*5名*6回)
	交通費	¥ 30,000	資材運搬用交通費 (レンタカー) 6000円*2回 スタッフ交通費 (往復1000円*12回) 講師交通費 (往復1000円*6回)
	通信費	¥ 6,000	・ホームページサーバーレンタル年間 (4000円) ・ホームページドメイン年間 (2000円)
	その他経費の合計額 (F)	¥ 54,000	
合計額 (G) = (E + F)		¥ 641,280	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×1076円
	まちのプランター活動日(12回)	271,152 円	7 人 × 3 h × 12 回 × 1076 円
	まちのプランター活動準備(12回)	116,208 円	3 人 × 3 h × 12 回 × 1076 円
	育苗活動(2回)	75,320 円	7 人 × 5 h × 2 回 × 1076 円
	タネ・苗交換会準備(2回)	12,912 円	3 人 × 2 h × 2 回 × 1076 円
	タネ・苗交換会開催(2回)	15,064 円	7 人 × 1 h × 2 回 × 1076 円
	WS・講座準備(6回)	96,840 円	3 人 × 5 h × 6 回 × 1076 円
	WS・講座開催(6回)	129,120 円	5 人 × 4 h × 6 回 × 1076 円
	WS・講座 講師打ち合わせ(6回)	38,736 円	3 人 × 2 h × 6 回 × 1076 円
	スタッフ打ち合わせ(12回)	77,472 円	3 人 × 2 h × 12 回 × 1076 円
	情報発信SNS・WEB・LINEオープンチャット等記事作成・配信(12回)	25,824 円	2 人 × 1 h × 12 回 × 1076 円
	クラフトサイン作成・修理(1回)	37,660 円	7 人 × 5 h × 1 回 × 1076 円
	緑と花のフェスティバル準備	26,900 円	5 人 × 5 h × 1 回 × 1076 円
	緑と花のフェスティバルワークショップ	37,660 円	5 人 × 7 h × 1 回 × 1076 円
	チラシ作成(16回)	51,648 円	1 人 × 3 h × 16 回 × 1076 円
	チラシ配布、掲示、ポスティングなど発信作業(16回)	51,648 円	1 人 × 3 h × 16 回 × 1076 円
	地域拠点植え付け活動(2回)	8,608 円	2 人 × 2 h × 2 回 × 1076 円
	活動レポート作成	193,680 円	3 人 × 3 h × 20 回 × 1076 円
	視察対応(4回)	17,216 円	2 人 × 2 h × 4 回 × 1076 円
合 計 (A)		1,283,668 円	

事業の実施体制

事業従事者数	7 人
--------	-----

従事者	事業における主な役割
A	事業統括、事業企画、行政との連携窓口
B	事業企画、イベント等の募集・周知、町会・子供会との連携窓口
C	事業企画、ワークショップ 準備および運営、地域拠点との連携窓口
D	まちのプランター活動・ワークショップ・イベント 準備および運営
E	まちのプランター活動・ワークショップ・イベント 準備および運営
F	まちのプランター活動・育苗活動 準備および運営、子供会との連携窓口
G	まちのプランター活動 準備および運営

No. 2

《 スタート助成 》

松戸が世界とつながる学びプロジェクト事業

特定非営利活動法人
なかよし学園プロジェクト

事業計画書

事業名	松戸が世界とつながる学びプロジェクト事業
団体名	特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

事業概要
松戸市内小中学校・フリースクールで授業の一環として学校とともに国際理解講演と探究学習を行い、生徒が制作した教材を世界へ届け、地域発の平和教育と多文化共生を広げるプロジェクトです。現地とオンラインで繋ぎ交流を行います。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は多文化共生と国際理解教育が重要課題となっており、外国につながる子どもや国際社会への関心を持つ若者が増える一方、学校現場では世界の現状や平和構築を学ぶ機会が限られています。地域に根差した国際教育の不足は、未来を担う子どもたちが多様性を理解し協働できる力を育む妨げとなり、地域社会の持続可能性にも影響します。こうした現状を踏まえ、松戸の子どもが自ら学び世界とつながる体験を創出し、市民全体が多文化共生と国際協力を自分事として捉える教育モデルを確立することが必要です。		
事業の目的	松戸市内の小中学生が国際理解と平和構築を学び、自ら教材を創作して世界へ届けることで、地域から多文化共生と国際協力を推進し、未来を担う市民として主体的に行動する力を育むことを目的とします。		
事業内容	1 事業内容 松戸市内の小中学校で文部科学省が定めている学習指導要領「総合的な学習の時間（探究的な学習）」の授業として国際理解・平和教育に取り組むため、教員とともに国際理解・平和教育講演を実施し、学んだ内容をもとに生徒が絵本・かるた・映像などの教材を制作します。同内容をフリースクールにも展開します。当団体は、日本の子どもたちが国際理解をし、自分たちに今できることを考え形にするワークショップを行い、作成をサポートします。完成した教材は南スーダン等へ当団体が届け、現地の授業で活用。市内小中学校・フリースクールでは、授業として適宜現地とオンライン交流を行うなど、子どもたちは成果と反響を共有し、異文化理解と平和への主体的行動力を育みます。最後にまとめ学習として、子供たちが授業の成果物の制作を行い、成果発表会を生徒・児童・学校関係者向けに行います。		
	2 スケジュール		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	5 月	広報活動(HP,チラシ、情報紙、資料作成、配布等) 市内小中学校・フリースクールと連携調整、事業説明・参加校決定、教材づくりの方向性決定	実施体制：構成員 場所：事務所 実施体制：構成員 対象：市内小中学校・フリースクール関係者 場所：市内小中学校職員室、フリースクール
6～7 月	国際理解・平和教育講演会を各校で実施、生徒による探究テーマ選定と教材草案作成	実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア（フリースクールの場合。以下同じ） 対象：市内小中学校・フリースクール児童・生徒、保護者	

			場所：市内小中学校教室・体育館、まつど市民活動サポートセンター（フリースクールの場合。以下同じ）
	8～9月	生徒が教材（絵本・かるた・映像など）を完成、英訳や動画編集、海外発送準備	実施体制：構成員、語学サポーター、地域ボランティア 対象：制作チームの児童・生徒、保護者 場所：市内小中学校教室、まつど市民活動サポートセンター
	10～12月	教材を南スーダン・ルワンダ等へ発送、現地授業で活用しオンライン交流を実施	実施体制：構成員、現地パートナーNGO、通訳・技術サポート 対象：参加児童・生徒、受入国の児童・生徒 場所：市内小中学校教室（オンライン）、まつど市民活動サポートセンター、海外現地校
	1～2月	現地からの成果報告を受けまとめ学習、成果物（ポスター・動画）制作、地域報告会準備	実施体制：構成員、各校教員、地域ボランティア 対象：参加児童・生徒 場所：市内小中学校教室、まつど市民活動サポートセンター
	3月	成果発表会を開催し事業総括、次年度継続計画を検討	実施体制：構成員、各校教員、参加児童・生徒 対象：児童・生徒、保護者、地域ボランティア、行政・企業関係者 場所：市内小中学校体育館、まつど市民活動サポートセンター
既存の事業からステップアップする部分			
事業従事者数	事業従事者数：5名		
事業の目標	①松戸市内の小中学校・フリースクール 3～5校で国際理解・平和教育講演会を実施し参加児童・生徒 延べ 500人以上が探究学習に参加する。②生徒が制作した教材を 50点以上完成させ南スーダン等 2か国以上の教育現場で活用する。③現地授業とオンライン交流を通じて延べ 300人以上の現地児童と双方向交流を実施する。④成果報告会を松戸市内で開催し市民・保護者延べ 200人以上の参加を目指す。⑤参加児童・生徒の 90%以上が「異文化理解・平和への意識が高まった」と回答するアンケート結果を得る。		
今後の展望	市内小中学校・フリースクールで毎年継続的に講演・教材制作を行う常設型の国際理解教育モデルを構築。松戸発の教材を南スーダン等世界各国で活用しオンラインを通じた恒常的な交流プログラムを確立。企業・市民協働による教材制作費・海外送料を自走的に賄う地域内資金循環モデルを整備。全国での実績と松戸版の成果をもとに全国自治体への横展開や文部科学省後援事業としての普及を推進。松戸から持続的に世界とつながる学びを生み出し、地域発の多文化共生・平和教育を国内外に広げることを目指します。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 35,000	事業費の一部を団体会計より拠出
	寄付金	¥ 10,000	支援者からの寄付
	事業収入	¥ 30,000	国際理解・平和教育 講師料
	自己資金の合計額 (A)	¥ 75,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 175,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 40,000	現地コーディネーター (謝礼10,000円×4人)
	消耗品費	¥ 36,000	ワークシート1セット50円×200部。教材用画用紙200枚(6000円)、文房具(2,000円) プリンターインク1セット7,500円×2セット
	印刷製本費	¥ 29,000	チラシ・パンフレット印刷5円×2,000枚、50円×280部
	通信運搬費	¥ 35,000	教材送付運送料(送料10,000円) 教材の海外輸送における手荷物運搬費の差額(25,000円)
	対象経費の合計 (D)	¥ 140,000	
その他経費	交通費	¥ 35,000	教材の海外輸送に伴う構成員交通費
	その他経費の合計 (E)	¥ 35,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 175,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 3

《 ステップアップ助成 》

ときわだいらレコードセンター事業

特定非営利活動法人

ディープデモクラシー・センター

事業計画書

事業名	ときわだいらレコードセンター事業
団体名	特非) ディープデモクラシー・センター

事業概要
孤独死、高齢者の街、空き店舗の増加、などマイナスイメージも多くある常盤平の、高度成長とともに歩んできた歴史や、60年の時間を経て成長した豊富な樹木などの豊富な地域資源を、コミュニティアーカイブとして見える化し、未来に残していきます。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	孤独死、高齢者の街、空き店舗の増加、など、街の活性化とはほど遠いいまの常盤平の街には、居住している人以外の往来はなく、どんよりとした空気が流れています。人々の交流も少なく、せつかくある公共の空間もあまり利用されることはなく、豊かな姿を形成している木々も、落ち葉などで迷惑がられているのが現状です。文化も、交流も、ない街は、誰にとっても魅力のない街になっています。そんななか、再開発の話が持ち上がっており、この街で暮らしてきた人々の営みを、なかったものにしてはいけなとを考えます。						
事業の目的	いまは窒息死寸前の常盤平の街ですが、かつては、いまでいうタワーマンションのような憧れの街で、子どもも多く、活気にあふれていました。60年を経て成長した豊かな木々は、他にはないような森の様子を見せてくれます。また、地形に大きな手を加えず、ゆとりを持って作られた常盤平団地の美しさも際立っていて、とくに現存するスターハウスとしてはほぼ唯一、生活することも可能です。また、孤独死発祥の街というネガティブな面も、孤立に抗ってきた街の歴史でもあり、これからの時代を象徴する地域資源といえます。本事業では、歴史、文化、森林に代表される自然環境など、常盤平の過去、現在を見る化するために、写真、8mm、絵画、テキストなど、これまでの記録を収集、保存、さらに、現在の様子、人々の語りを記録し、コミュニティアーカイブとして、将来に残していきます。そのための、人材育成、記録の収集、管理・保存、インタビュー、映像記録者など、アーキビストを育成したいと考えます。						
事業内容	1 事業内容（予定） ○市民参加の連続講座（5回）コミュニティアーキビスト養成講座 第1回・コミュニティアーカイブとは（講師・せんだいメディアテーク） 第2回・まちを見る目をレベルアップ（講師・陸奥賢さん〔観光家〕） 第3回・人の話を聞くということ（講師・瀬尾夏美〔映画監督〕） 第4回・アーキビストの技術1（講師・現役のアーキビスト〔未定〕） 第5回・アーキビストの技術2（講師・現役のアーキビスト〔未定〕） ○古い写真を募集し、集められた写真はデジタル化した後返却をする。インタビューの様子は録画し、それらをアーカイブにし写真展にて報告をしていく。 2 スケジュール <table><tr><td>実施月</td><td>具体的な取り組み</td><td>実施体制、対象、場所など</td></tr><tr><td>4月</td><td>広報開始</td><td></td></tr></table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月	広報開始	
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
4月	広報開始						

	6 月	講座第 1 回	実施体制：構成員 対象：常盤平周辺の市民 場所：常盤平市民センター
	6 月	古い写真の募集開始 (常盤平団地へのポスティング)	実施体制：構成員 対象：常盤平周辺の市民
	7 月	講座第 2 回	実施体制：構成員 対象：常盤平周辺の市民 場所：常盤平市民センター
	8 月	講座第 3 回	実施体制：構成員 対象：常盤平周辺の市民 場所：常盤平市民センター
	8 月	出張聞き取り (常盤平での生活について、インタビュー)	実施体制：構成員、講座受講者 対象：常盤平周辺の市民
	9 月	講座第 4 回、5 回	実施体制：構成員 対象：常盤平周辺の市民 場所：常盤平市民センター
	9 月	関係者インタビュー (常盤平で暮らしていた著名人に取材)	実施体制：構成員、講座受講者 対象：常盤平周辺の市民
	10 月	写真展開催	実施体制：構成員、講座受講者 対象：常盤平周辺の市民 場所：ときわだいらレコードセンター
既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)	本年度、ときわだいらレコードセンターとして事業を開始し、中心となるスタッフで、コミュニティアーカイブのあり方を検討してきました。活動に賛同し、一緒に活動をしてくれる方々を増やすために、記録映像の上映会などを行ってきました。次年度からは、常盤平に暮らす方々の持っている、過去の写真をお借りし、アーカイブ化していく作業を、本格的にスタートさせ、また、現在の様子を記録するための、出張記録もスタートさせます。そのための人材育成を、ステップアップ事業として行います。		
事業従事者数	6 名		
事業の目標	講座参加者のべ 100 名 研修開催中に集まるかつての常盤平の写真 500 枚 研修開催中に集まるかつての常盤平の動画 20 本		
今後の展望	今後、常盤平の街が変わっていくなかで、かつての街の面影や、人々の営みや暮らしを、コミュニティアーカイブとして残すことで、街の中に、いつでもかつての常盤平を感じることができる場所をつくっていきたいと考えます。また、ここでの取り組みが、市内各地に広がり、いくつものコミュニティアーカイブがつくられていけるよう、取り組みを続けてまいります。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	参加費	¥ 100,000	@1,000×100人
	団体負担金	¥ 116,000	
	自己資金の合計額 (A)	¥ 216,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 516,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 400,000	@100,000×3回 (講師謝金講座1, 2, 3) @50,000×2回 (講師謝金講座4, 5)
	使用料および貸借料	¥ 25,000	@5,000×5回 (会場費)
	印刷製本費	¥ 20,000	講座チラシ@20円×500枚 写真展チラシ@20円×500枚
	消耗品費	¥ 20,000	展示用資材 (粘着剤、テープなど)、講座用文具 (コピー用紙、ペン、付箋) など
	対象経費の合計 (D)	¥ 465,000	
その他経費	スタッフ交通費	¥ 30,000	当日スタッフの交通費 @1000×5回×6人
	食料費	¥ 21,000	当日スタッフの昼食代 @700×5回×6人
	その他経費の合計 (E)	¥ 51,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 516,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 4

《 スタート助成 》

松戸・子どもの音楽体験事業

Chloris Music (クロリス・ミュージック)

事業計画書

事業名	松戸・子どもの音楽体験事業
団体名	Chloris Music（クロリス・ミュージック）

事業概要

乳幼児期の体験格差と親子のアタッチメント形成に、クラシック楽器によるコンサートでアプローチします。未就学の子どもたちに体験してもらうことで親子の感性と心を育て、子育てを応援し、音楽を乳幼児から体験することで文化振興への入り口となる機会を提供します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）

松戸市に文化施設はあるが、未就学児向け音楽体験は不足している。育児孤立や外出機会の少なさも課題で、親子の交流拠点と文化芸術の定着が求められている。子ども向けコンサートは全国的に広がりを見せているが、松戸市についてはホール開催が多く、またクラシック音楽の垣根を越えられない公演が多いため、0・1歳の親子に楽しめる内容が少ないと考える。また同時にアクセスしやすい場所でのコンサート開催がなく、そのため乳幼児を連れて行くことを考えると0歳が参加しにくい。

事業の目的

乳幼児期における音楽体験格差の緩和。
子どもたちに生の音楽体験を届け、感性・想像力を育む。
親子が気兼ねなく参加できる「子育て世代に優しい文化事業」を実現。
音楽を通じて地域の人々がつながる場を作り、松戸市の文化的魅力と子育て環境の向上に寄与する。

事業内容

1 事業内容

名称（例）：「うたってあそぼ！親子で楽しむコンサート」

対象：0歳から小学校低学年までの子どもとその保護者

内容：クラシック・童謡・手遊び歌を交えた親子参加型コンサート

親子で参加できるリトミックや楽器体験コーナーも実施

会場（例）：松戸市市民交流会館（すまいる）／ほっとる一む松戸／森のホール21・スタジオ等

開催頻度：年4回

入場料：親子1組 1,000～2,000円程度

集客方法：チラシ配架・Instagram告知・動画配信での集客

参加者協力事項：アンケート・動画撮影

申込方法：Googleフォーム（事前予約制で顧客管理）

参加者に毎回アンケートを実施し、満足度とアタッチメント形成を数値化、次のコンサート及び集客方法に生かす。

また公演動画を撮影し、参加者親子のアタッチメント形成向上のため限定公開、閲覧数で向上率を可視化。同時に次回公演の集客のための動画も公開し、ファンを増やしていく。

2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～10月	チラシ作成・告知	告知動画撮影・編集・公開 実施体制：構成員2名・外部演奏家・外部動画編集者 対象：地域の親子 場所：団体事務所・動画撮影スタジオ

	6 月	第 1 回コンサート開催	実施体制：構成員 1 名・外部演奏家 1 名 対象：地域の親子 場所：ほっとる一む松戸（希望予定）
	7 月	第 2 回コンサート開催	実施体制：構成員 1 名・外部演奏家 1 名 対象：地域の親子 場所：森のホール スタジオ
	9 月	第 3 回コンサート開催	実施体制：構成員 1 名・外部演奏家 1 名 対象：地域の親子 場所：松戸市市民交流会館
	12 月	第 4 回コンサート開催	実施体制：構成員 2 名・外部演奏家 2 名 対象：地域の親子 場所：森のホール リハーサル室（映像スタジオ）
既存の事業からステップアップする部分			
事業従事者数	2 名		
事業の目標	・コンサート参加者数、会場の定員の 7 割 ・Instagram フォロワーUP10%（2025 年 9 月 482 名→550 名程度） ・リピーターや口コミ来場 1 割 ・コンサート毎にアンケートを実施（満足度・アタッチメント形成の向上指数） ・コンサート動画限定公開の閲覧数 20 回～40 回再生（1 組あたり 2 回以上目標：公演後 1 ヶ月の期間限定で参加者にのみ公開。1 ヶ月の再生回数により算出）		
今後の展望	チラシやパンフレットの配架、コンサートによる実績、動画配信により ・松戸市内の乳幼児施設・保育園等からのコンサート訪問増加 ・団体へのファンを増やし、親子サロン等とのコラボでコンサート開催（年 1 回程度） ・森のホール小ホールでコンサート開催（2028 年目標）		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	イベント参加費	¥ 70,000	コンサート入場料（第2回目） 1,000円×15組（親子） コンサート入場料（第3回目） 1,000円×15組（親子） コンサート入場料（第4回目） 2,000円×20組（親子）
	団体拠出金	¥ 31,200	
	自己資金の合計額（A）	¥ 101,200	
市	市民活動助成金（B）	¥ 100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 201,200	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の 交付対象 経費	報償費	¥ 155,000	外部演奏家謝礼（第1回～第3回：各1名、第4回：2名） 第1回～3回目 20,000円×1名×3回／第4回目 20,000円×2名 動画編集 10,000円×1名（第4回宣伝用） 公演動画編集 15,000円×1名×3回
	消耗品費	¥ 6,600	りとみつくスカーフ 3,000円 第4回目シール・画用紙 2,000円 印刷用紙 800円 ラベルシール 800円
	印刷製本費	¥ 17,400	チラシ印刷・ポスター印刷 第1回目～3回目 チラシ500枚×3公演分：2,500円×3 第4回目 チラシ1000枚：4000円 ポスター 8枚 4,000円 プログラム印刷 第1回目～3回目 15枚×20円×3 900円 第4回目 20部×50円 1,000円
	使用料及び賃借料	¥ 20,000	音楽著作物使用料 第2～3回目 2,500円×2 第4回目 5,000円
			会場使用料 4,000円×2回（森のホール スタジオ）
			会場使用料 2,000円×1回（すまいる）
	対象経費の合計（D）	¥ 199,000	
そ の 他 経 費	旅費交通費	¥ 2,200	森のホール駐車場 500円×2日程×1名／500円×1日程×1名 電車代 360円×1日程／340円×1日程
	その他経費の合計（E）	¥ 2,200	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 201,200	

【チェック項目】

- 1 助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。
- 2 助成金（B）が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 5

《 スタート助成 》

矢切地区における子どもの遊び場創設事業

あそびパーク やきりの

事業計画書

事業名	矢切地区における子どもの遊び場創設事業
団体名	あそびパーク やきりの
事業概要	
矢切地区で、①子育て世帯が子育てのし易さを実感でき、②子ども達の自主性や感性を引き出す事ができる、そんな遊び場・居場所をつくるために、プレーパークイベント、農体験イベントを実施する。③映画上映会を通して、地域全体で子どもへの理解・関心を高めるとともに、子育て世帯とそれ以外の立場の人で相互に理解し合える環境を作る。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	(1) 矢切地区には子育て支援に関する施設や相談機関、イベントが他地域と比べて少なく、子育てのしやすさを実感出来ていない。 ・乳幼児期に親子で過ごしたり、相談できる場が少ない。 ・子ども達が放課後に気軽に立ち寄れる児童館・子ども館のような常設の施設がない。 ・不登校児が増加しているが日中に気軽に訪れる事が出来るフリースペースや居場所が少ない。親子ともに困難を抱えてしまっている家庭が多いと考える。 (2) 矢切地区には自然が残っている場所もあるがうまく活用されておらず、また子どもたちが自由に遊ぶことができる場や機会が少ない。 ・学校や公園等の遊び場には安全面や近隣への配慮等から制限が多く、子どもが自由に伸び伸びと遊ぶことが難しい。 ・子どもたちの農や自然に触れる機会が減少している。 (3) 子育て世帯とそれ以外の世帯との交流の場が減っており（子ども会の解散等）、双方の立場を理解し合う事が難しくなっている。
事業の目的	(1) 矢切地区において子ども、子育て家庭が気軽に参加できる場や機会を増やすことで、子育てしやすいと実感できるようにする。 (2) 矢切の自然を生かした遊びやイベントを通じて、子どもたちの自主性や感性を引き出す機会を作り、かつその機会が不登校児にとっての居場所にもなり得るようにする。 (3) 地域住民に広く、子育てに関する情報や知見を届け、地域全体で子どもへの理解、意識を高めていくとともに、世代間の交流の場を生み出す。
事業内容	1 事業内容 ①プレーパーク: 矢切地区にて、子ども・親子の遊び場・居場所となるプレーパークを休日に開催し(坂川親水広場(仮))、また未就学児・不登校児の居場所となるように平日にも開催する(坂川親水広場(仮))。プレーパーク実施日には構成員が事前に、木工遊び、コマ遊び等が出来るスペースを可能な範囲で準備し、開催時間中は見守り役として場内に常駐する。参加費は取らない。 ②農体験イベント: 子どもたちの農業や自然に触れる機会として、矢切耕地にある坂下ほんでん子どもの遊び場内の畑(仮)にて農体験イベントを開催する。畑の管理方法や野菜栽培のアドバイスを、地元農家さんをお願いする。 ③映画上映会: アンケートでも声の多かったドキュメンタリー映画『みんなの学校』上映会を実施予定。(作品は変更になる可能性有り) 例年同様、矢切幼稚園(案)、松戸市教育委員会への協力・後援を仰ぐ他、広報場所を広げて集客につなげる。 2 スケジュール ※周知活動としては、下記の他各イベント約1か月前に、当団体 SNS 配信を通して周知する。

	※プレーパークは様子を見ながら、平日と休日混せて開催する。 ※農業体験の畑は下記に記した他、構成員で定期的に管理する。		
	実施月	具体的な取り組み	A. 実施体制、B. 対象、C. 場所など
	4 月	①②周知活動（チラシ印刷掲示・配架・SNS 配信）	A. 構成員、B. 地域住民、C. 市民活動サポートセンター等/Instagram
		①プレーパーク【平日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	5 月	②農体験（夏野菜植付）	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂下ほんでん子どもの遊び場内畑
		①プレーパーク【平日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	6 月	①プレーパーク【休日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	7 月	③映画素材予約、チラシ印刷掲示・配架・SNS 配信	A. 構成員、B. 地域住民、C. 市民活動サポートセンター等/Instagram
	8 月	②農体験（夏野菜収穫）	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂下ほんでん子どもの遊び場内畑
	9 月	②農体験（秋野菜植付）	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂下ほんでん子どもの遊び場内畑
	10 月	③映画上映会	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 矢切幼稚園やきりっこホール
		①プレーパーク【休日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	11 月	②農体験（秋野菜収穫）	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂下ほんでん子どもの遊び場内畑
		①プレーパーク【平日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	2 月	①プレーパーク【平日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
	3 月	①プレーパーク【休日】	A. 構成員、B. 地域の子ども・住民、C. 坂川親水広場
既存の事業からステップアップする部分			
事業従事者数	5 人		
事業の目標	この遊び場・居場所が矢切地域市民に広く知られ、気軽に立ち寄れる場所になることを目指す。また、子ども達が自己選択・自己決定をし、挑戦・失敗・成功の体験ができる場所にする。 ①プレーパーク【平日】参加者 10 人/回 【休日】参加者 20 人/回 ②農体験イベント参加者 20 人/回 ③映画上映会参加者 30 人		
今後の展望	この遊び場・居場所を継続させるために、広く広報活動に力を入れる。また、他団体との横のつながりを太くし、ゆくゆくは、常設の基地となる場をつくり、世代を超えた矢切地域の遊び場・居場所として開放したい。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 6,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	イベント参加料	¥ 54,000	農業体験 20人×300円×4回=24,000円 映画上映会 30人×1000円=30,000円
	自己資金の合計額 (A)	¥ 60,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 160,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 64,400	映画使用料『みんなの学校』:60,000円 会議室使用料 (サポートセンター会議室220円×20時間) : 4,400円
	印刷製本費	¥ 9,400	上映会チラシ印刷1500部(プリントパック):6,000円 アンケート印刷(コンビニ)20部×20円=400円 やきりのチラシ印刷200部(プリントパック):3,000円
	消耗品費	¥ 74,200	農業体験 苗代:150株×150円=22,500円 種代:5種×500円=2,500円 麻紐:2巻×200円=400円 支柱代:20本2,680円×10セット=26,800円
			プレーパーク 資材・遊び道具:3,000円×7回=21,000円 救急セット:1000円
	通信運搬費	¥ 1,000	ゆうパック、FAX等 (映画素材返送、申込書、報告書等)
	対象経費の合計 (D)	¥ 149,000	
その他経費	振込手数料	¥ 1,000	映画素材賃借料金振込他
	食費	¥ 10,000	懇親会食費 (2,000円×5人/1日)
	その他経費の合計 (E)	¥ 11,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 160,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 6

《 スタート助成 》

松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業

松戸の地理・歴史探訪調査会

事業計画書

事業名	松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業
団体名	松戸の地理・歴史探訪調査会

事業概要	
常盤平地区に残された「子和清水」の本来の姿や特色について、水利用や侵食谷の地形的、歴史文化的特性について、また、「子和清水」に関連する旧鮮魚街道の道筋についても、過去のルートと地域開発にともない変貌した姿についてこれまで明らかに出来なかった事柄について調査研究することにより、松戸市の歴史文化的資源価値を見出し、文化財の復元活用を試みる。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	令和5年7月、文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受け、「松戸市文化財保存活用地域計画」が文化庁長官の認定を受けた。松戸市では、市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成しつつ、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継ぐため、令和5年度から令和12年度までの8年間を計画期間とする「松戸市文化財保存活用地域計画」を策定している。この計画では、「行政のみならず地域に暮らす人々が一体となって、地域総がかりで文化財を「守り」「活かし」「伝える」体制を構築し、文化財の継承に努めて行く。」とある。 本会が取り組む事業計画は、文化庁、松戸市の方針に即した地域の歴史的文化財の将来的活用を鑑み計画するものである。
事業の目的	松戸市にとって重要な歴史文化的意義をもつ「子和清水」について、自然と地理・歴史的側面から究明し、さらに松戸の歴史発展に寄与した旧鮮魚街道のルートの探求と地域の歴史文化に関わるその特性と現在までにおける変化を明らかにすることで、歴史文化遺産としての価値を見出すとともに、松戸市政や地域の学校や子どもたちへ伝え、地域の環境教育に活かされるような取り組みを行うことを目的とする。なお、本事業は、環境教育や多くの市民の記憶に残る松戸の重要な歴史文化資産が引き継がれることを願って活動するものであり、また「松戸市文化財保存活用地域計画」の推進に協力しながら、後世に伝えていくための重要な調査研究と考える。
事業内容	1 事業内容 ① 事業にあたっての現状認識、問題提起 - 今年度の活動からは、解決されない部分も多く、市民への周知活動も計画通りにはいかなかった経緯から、かつて江戸・東京への重要な物資輸送を担っていた「鮮魚街道」や街道の中継水場「子和清水」については、団地開発や道路整備事業による変貌について松戸市の保存資料不足を補うための研究活動の必要性を感じている。 「子和清水」については、養老伝説の話以外の本来の地域の自然・歴史文化的価値の特性について、地域開発と地形変化に注目して進めていく。これまで整理できなかった常盤平団地および牧の原団地開発により変貌した状況について明らかにし、「旧鮮魚街道」の複数のルートについての既存資料を整理する。松戸市観光協会、教育委員会等が公表している誤った表記について、教育委員会、市立博物館等と話し合いをもって修正依頼をしていく。 ② 事業立案 - 本事業は、現松戸市文化財保存活用地域計画に即したテーマ（松戸宿、鮮魚街道と江戸河岸）に該当するものであり、事業の重要性が高いものといえる。 「子和清水」および「鮮魚街道」は、松戸市にとって貴重な歴史文化財的価値があると思われることから、松戸市が把握できていないさらなる調査研究により全容解明に向けての調査研究が重要である。 ③ 事業の市民への享受 - 本事業の調査研究は、多く市民に伝達し文化的な資産価値を認識してもらう

	ことが重要と考え、地形や水系をさらに調査し、歴史的に変貌した状況についての成果を、地図を活用して市民に分かりやすい説明をしていく。 ・本事業の成果は、松戸の郷土史に関心を寄せる市民をはじめ多くの市民に伝えていくことで、松戸市の歴史文化により興味をもっていただき、文化財保存の意義や価値について理解し、次世代に伝えてもらえることが有益だと考え、さらなる事業を推進して行く。 ・市民への情報伝達享受の方法として、メール、松戸市の広報誌、まなびいネット、まつど市民活動センター等を利用した案内を行い、印刷配布、現地案内（巡検）、機関紙の発行等で調査・研究内容を伝えていく。「また、関連事項について近隣の研究会（金ヶ作陣屋研究会）ほか、周辺自治体の研究団体と連携しながら勉強会や現地案内（巡検）活動を行いながら交流を図る。 2 スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr><tr><td>4～6</td><td>鮮魚街道の道筋再調査 1 地図活用により現地調査</td><td>会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究</td></tr><tr><td>7～10</td><td>鮮魚街道の道筋再調査 2 聞き取り、過去の地図活用で常盤平および周辺地域と子と清水、鮮魚街道の変貌調査</td><td>会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査</td></tr><tr><td>4～11</td><td>子と清水の地形・地質・地下水水質調査、聞き取り調査、過去の写真整理</td><td>関係専門家を招いて自然特性調査および過去の利用実態についての資料収集と住民への聞き取り調査</td></tr><tr><td>11～2</td><td>調査研究の整理および勉強会、報告会</td><td>景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備と関係者、市民を集めて勉強会・報告会</td></tr><tr><td>3</td><td>研究報告と機関紙発行、現地案内</td><td>会員、地域住民参加による子と清水および周辺の旧街道、地形を案内</td></tr></table> 上記スケジュール内には、資料、史料調査整理も含め随時遂行していく。	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～6	鮮魚街道の道筋再調査 1 地図活用により現地調査	会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究	7～10	鮮魚街道の道筋再調査 2 聞き取り、過去の地図活用で常盤平および周辺地域と子と清水、鮮魚街道の変貌調査	会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査	4～11	子と清水の地形・地質・地下水水質調査、聞き取り調査、過去の写真整理	関係専門家を招いて自然特性調査および過去の利用実態についての資料収集と住民への聞き取り調査	11～2	調査研究の整理および勉強会、報告会	景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備と関係者、市民を集めて勉強会・報告会	3	研究報告と機関紙発行、現地案内	会員、地域住民参加による子と清水および周辺の旧街道、地形を案内
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																	
4～6	鮮魚街道の道筋再調査 1 地図活用により現地調査	会員による布佐（我孫子市）～旧松戸河岸（江戸川・松戸市）の現地調査および文献研究																	
7～10	鮮魚街道の道筋再調査 2 聞き取り、過去の地図活用で常盤平および周辺地域と子と清水、鮮魚街道の変貌調査	会員による常盤平団地、牧の原団地地域と五香～八柱の重点的現地調査および聞き取り調査																	
4～11	子と清水の地形・地質・地下水水質調査、聞き取り調査、過去の写真整理	関係専門家を招いて自然特性調査および過去の利用実態についての資料収集と住民への聞き取り調査																	
11～2	調査研究の整理および勉強会、報告会	景観デザイン（外部委託含む）、地図表現作業、研究報告準備と関係者、市民を集めて勉強会・報告会																	
3	研究報告と機関紙発行、現地案内	会員、地域住民参加による子と清水および周辺の旧街道、地形を案内																	
既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）																			
事業従事者数	5 人																		
事業の目標	(1) 既存の地形図や旧版地形図を利用し過去と現代の重ね合わせの地図作製 (2) 地形・水系から想像する子と清水と旧鮮魚街道の実態と景観図作成 (3) 旧子と清水および復元子と清水のスケッチ画像作成 (4) 調査研究成果の報告 (5) 完成した際には 100 部ほどを印刷し、関係者に配布する。 (6) 研究説明会および現地巡検を市民参加型で開催する。																		
今後の展望	本事業は、公園化されている「子と清水」の昔の本来の姿を復元し、「鮮魚街道」の正確な内容研究を目指すものである。これまでの「子と清水」、「鮮魚街道」の実態調査と資料収集の不足分、未解明部分の調査を次年度継続する。次々年度は、さらに「子と清水」、「鮮魚街道」について、開発による変貌前と今の姿を明らかにし、松戸市の文化財的資産の復元と市民や松戸市の関連機関（市立博物館、教育委員会・生涯学習部など）への情報周知を進めて行く。																		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 475,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 475,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 575,000	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 56,500	関連図書・専門書 @2,000×10 20,000円 雑誌購入費用 @1,000×5 5,000円 地形図、旧版地形図 @500×20 10,000円 インクカートリッジ @300×50 15,000円 用紙 1000円 フィールドノート @550×10 5,500円
	印刷製本費	¥ 20,500	関連図書複写代 @10×300枚 3,000円 @50×50枚 2500円 外部委託印刷概算 @150×100 15,000円
	使用料及び賃借料	¥ 23,000	常盤平市民センター他会場代 @600×20 12,000円 印刷機リース利用 作成資料等印刷代金@1100×10ヵ月 11,000円
	食糧費	¥ 20,000	参加者飲料代 @200×5人×20 20,000円
	委託料	¥ 100,000	イラスト・設計料 100,000円
	報償費	¥ 15,000	外部協力者聞き取り @3000×5回 15,000円
	保険料	¥ 10,000	研究会、巡検等開催傷害保険 4月～翌年3月 (1年間の傷害保険料 1回20人まで10,000円)
	対象経費の合計 (D)	¥ 245,000	
その他経費	PC購入	¥ 160,000	中古PC OSWindows11乗り換え @80000×2台
	現地調査等交通費	¥ 90,000	@3000×3人×10 90,000円
	調査用計器	¥ 50,000	水質調査関連 電気伝導度計@30,000×1 30,000円、 PH計@20,000×1 20,000円
	その他	¥ 30,000	現地調査等自動車使用 @5000×6回 30,000円
	その他経費の合計 (E)	¥ 330,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 575,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 7

《 スタート助成 》

文学を通じて生きがいと豊かな心を育む事業

朗読と文学の会

事業計画書

	事業名	文学を通じて生きがいと豊かな心を育む事業									
	団体名	朗読と文学の会									
事業概要											
団体が長年実施してきた例会の中で発表された俳句や講談等の中から「宮沢賢治の詩集と解説」「参加者が投句された俳句についての解説」について書籍化を行い、配布することで文学を広く深く理解してもらい、高齢者の交流と生きがいを維持する。											
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市では、古くからの住民や大型団地が造成され世代間により様々な考え方が存在しています。 松戸市の高齢者数(2025年3月現在 65歳以上)は約13万人、松戸市人口の約26%となっています。(松戸市ホームページ 住民基本台帳人口(年齢別)) この様な松戸市の高齢化に伴い、高齢者の生きがいを維持活性化する事を手助けする手段として、書籍を出版する事とします。										
事業の目的	今までの例会の発表での「宮沢賢治の詩集と解説」と「投書されてきた参加者の俳句」のまとめ、本を出版し、文学の良さを知ってもらう。 出版した本を配布し、文学を広く深く理解してもらい高齢者の生きがいを維持活性化する。										
事業内容	1 事業内容 例会で発表された朗読、俳句、解説、各評論、講談師(真打)による講談等の中から今回は、「宮沢賢治の詩集と解説」「参加者が投句された俳句についての解説」についてそれぞれ1冊ずつ計2種類書籍化を行う。 ・実施方法としては、通常の団体活動の例会とは別日程で編集作業を設け、書籍化を行う。 - 編集作業は、構成員や例会参加者の有志とで行う。 ・書籍発行を事前に知ってもらうためパンフレットを作成し事前周知をする。稔台市民センター・まつど市民活動サポートセンター・松戸市の出張所(予定)に配布する。 ・書籍化した本を、高齢者の生きがいの維持活性化の為に、まつど市民活動サポートセンター・まつどまなびいネット等の情報を元に他団体が開催しているイベントで高齢者を対象に配布を行い、文学を理解してもらう。 2 スケジュール <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月～9月</td><td>「宮沢賢治の詩集と解説」「参加者が投句された俳句についての解説」に対する内容の検討と原稿の作成</td><td>実施体制：構成員 対象：文学に関心がある例会参加者 場所：稔台市民センター、まつど市民活動サポートセンター会議室</td></tr> <tr> <td>7月～9月</td><td>書籍発行の周知(パンフレット作成と配架依頼)</td><td>実施体制：構成員 場所：まつど市民活動サポートセ</td></tr> </tbody> </table>		実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月～9月	「宮沢賢治の詩集と解説」「参加者が投句された俳句についての解説」に対する内容の検討と原稿の作成	実施体制：構成員 対象：文学に関心がある例会参加者 場所：稔台市民センター、まつど市民活動サポートセンター会議室	7月～9月	書籍発行の周知(パンフレット作成と配架依頼)	実施体制：構成員 場所：まつど市民活動サポートセ
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など									
4月～9月	「宮沢賢治の詩集と解説」「参加者が投句された俳句についての解説」に対する内容の検討と原稿の作成	実施体制：構成員 対象：文学に関心がある例会参加者 場所：稔台市民センター、まつど市民活動サポートセンター会議室									
7月～9月	書籍発行の周知(パンフレット作成と配架依頼)	実施体制：構成員 場所：まつど市民活動サポートセ									

		業) 原稿作成と並行	ンター、稔台市民センター、 松戸市の出張所等
	10月	印刷業者へ製本依頼をする	実施体制：構成員
	11月以降	配布作業 (他市民活動団体の市民 参加イベントへの参加) 引き続き継続的に行う。	実施体制：構成員 対象：他市団体構成員・市民 場所：他市民活動団体の市民参加 イベント
既存の事業から ステップアップ する部分			
事業従事者数	14 名		
事業の目標	1. 他市民活動団体の市民参加イベント等で 300 部配布を行う 2. 書籍を通じて、高齢者がお互いの交流を深める材料としてもらう。		
今後の展望	1. 2014 年 7 月を初回として 2025 年 9 月現在、毎月第三水曜日開催の例会 は 125 回となり参加者数は延べ 3800 名を数えましたが、この 125 回の例 会で培った参加者の絆と継続してきた発表の機会をより多くの松戸市民 に知っていただき、市民に「生きる喜び」を実感できる場所として例会 の充実を図り更なる持続可能なコミュニティとしたい。 2. 考えることを重視し、自由な発言ができる場所としたい。 3. 参加者発表の記録(映像を含む)を希望する参加者間で共有し、参加者の スキルアップと関係性を可視化したい。 4. 講談発表に伴う松戸市出身の偉人賢人講談として参加者からの情報に基 づき、会として脚本を編集制作したい。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 8,494	事業の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 8,494	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 76,446	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 84,940	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 79,440	中綴じ冊子 A4 60ページ 300部 (38,220円) × 2種類 = 76,440円 パンフレット 30円 × 1枚 × 100部 = 3,000円 (書籍のレジュメ: 製本完成までの事前周知用)
	使用料および賃借料	¥ 5,500	書籍出版にあたる会議等 会場費 220円/h × 5H × 5回 = 5,500円 稔台市民センター、まつど市民活動サポートセンター会議室
	対象経費の合計 (D)	¥ 84,940	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 84,940	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 8

《 スタート助成 》

超高齢化社会に向けての支援活動事業

料親会

事業計画書

事業名	超高齢化社会に向けての支援活動事業
団体名	料親会

事業概要
超高齢化社会に向けての支援活動として、ビジネスケアラー向けにはストレスの解消を提供し、 独居老人の孤独死解消や、軽度認知障害（MCI）の認知機能低下軽減を図るための、皆で集まっ て調理する場を提供します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	2025 年は介護崩壊元年の始まりで有る。2025 年は「団塊の世代」の全員が 75 歳以上の「後期高齢者」に成り 600 万人の規模に達する見込みで有る。更に、介護職員数の減少が止まらず、施設での介護不能が増大し、自宅での介護にならざるを得ない状況であり、益々、ビジネスケアラーが増え続けて居る状態である。結局、親族に依る介護が中心に成り、介護に慣れない親族の肉体的・精神的ストレスの増大といった問題が発生して居る。その他に、妻に先立たれてしまい、過去に家事を主体としていなかったり、地域との交流が無かったりするなどの男性独居老人の軽度認知障害（MCI）の認知機能の低下・孤独死など超高齢化社会の中で支援が必要な松戸市民の方が多く居る。															
事業の目的	A. ビジネスケアラー向け(在宅介護の為に離職された男性)の肉体的・精神的な一時的な気分転換の機会を提供する。 B. 人との交流が、無かったり、少なかったりする事で、独居老人(主に男性)の方が一の孤独死対策防止となる。 C. 更に、軽度認知障害（MCI・正常な状態と認知症の間。かつ、日常生活は自立している状態）の男性も参加して頂き、皆さんと一緒に、調理したり会食雑談する事で、認知症の症状に改善効果が期待できる。															
事業内容	1 事業内容 上記の事業目的のために、毎月 1 回開催して、従来の会員と共に、参加者の方々と一緒に、調理し全員で会食し、ビジネスケアラーが苦勞して居る事を聴くなど雑談をし、お互いの親睦を深める。事業実施に当たり 1 回の参加者を 5 人程度にふやす。これを機に既存会員の、介護・認知症に対する関心の深化に進み、更に、軽度認知障害（MCI）への積極的な行動に進む。 スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr><tr><td>4 月</td><td>料理会 1 回目 ポスターや SNS での周知</td><td>構成員。独居老人等地域の方々。松戸市市民会館 1 階 102 号室(大型調理室) 構成員。構成員宅。</td></tr><tr><td>5 月</td><td>2 回目</td><td>上記と同様</td></tr><tr><td>6 月</td><td>3 回目</td><td>上記と同様</td></tr><tr><td>7 月</td><td>4 回目 ポスターや SNS での周知</td><td>上記と同様</td></tr></table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4 月	料理会 1 回目 ポスターや SNS での周知	構成員。独居老人等地域の方々。松戸市市民会館 1 階 102 号室(大型調理室) 構成員。構成員宅。	5 月	2 回目	上記と同様	6 月	3 回目	上記と同様	7 月	4 回目 ポスターや SNS での周知	上記と同様
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4 月	料理会 1 回目 ポスターや SNS での周知	構成員。独居老人等地域の方々。松戸市市民会館 1 階 102 号室(大型調理室) 構成員。構成員宅。														
5 月	2 回目	上記と同様														
6 月	3 回目	上記と同様														
7 月	4 回目 ポスターや SNS での周知	上記と同様														

	8 月	5 回目	上記と同様
	9 月	6 回目	上記と同様
	10 月	7 日目 ポスターや SNS での周知	上記と同様
	11 月	8 回目	上記と同様
	12 月	9 回目	上記と同様
	1 月	10 回目 ポスターや SNS での周知	上記と同様
	2 月	11 回目	上記と同様
	3 月	12 回目	上記と同様
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)			
事業従事者数	2 名		
事業の目標	参加者数：延べ 60 人		
今後の展望	今後の高齢化社会に向けての支援活動を積極的に行いたい。松戸市の他の市民活動団体とも交流を深めて行きたい。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 22,640	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 22,640	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 122,640	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 14,400	コピー代 1回3,600円×4回
	消耗品費	¥ 90,000	食材費 5名×1,500円×12回
	使用料及び賃借料	¥ 18,240	松戸市民会館 380円×4時間×12回
	対象経費の合計 (D)	¥ 122,640	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 122,640	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 9

《 スタート助成 》

Matsudo Tech Lab

先端科学技術振興・啓発事業

松戸ロボット研究会

事業計画書

	事業名	Matsudo Tech Lab 先端科学技術振興・啓発事業
	団体名	松戸ロボット研究会
事業概要		
小学生から中学生を対象としたロボット製作ワークショップを開催し、興味をもってもらおうことを目指す。また科学技術に関する展示やセミナー、交流会などのイベントも開催し、子どもから大人まで幅広い世代の市民に対してロボットや先端技術に対して「面白い」「もっと知りたい」と興味をもってもらおうことを目指す。		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市内の公立中学校において、ロボット製作に取り組んでいる科学部は少ない。私たちは市内の公立中学校の科学部でロボット製作の楽しさを知ることができた。学校にある部活や工作機械などの設備に関わらず市内の小学生や中学生に科学技術や先端技術に触れる機会を提供することができたらと考えている。 また、松戸市には FAB LAB（3D プリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機械を備えた実験的な市民工房）が存在しないため、その役割を担い、市民の「ものづくりをしたい」「作りたい」という想いを支援する拠点としての機能を果たす。 さらに、松戸市内には科学館等、先端技術に直接触れることのできる施設が少ないことから、ロボットや先端技術の振興に寄与する場を設ける。	
事業の目的	①. 未来を担う子供たちへロボットの体験会やワークショップを行うことにより先端技術へ興味をもってもらい次世代のエンジニアを生み出すこと。 ②. 市民の皆様へ科学技術を身近に感じてもらうため。 ③. 市民の皆様へ FAB LAB として工作機械（3D プリンターや CNC フライス盤など）を使ってものを作れる場所を提供するため。	
事業内容	以下の①②③の内容は、年2回開催する Matsudo Tech LAB 内で行う。 ①. 将来を担うこどもたちにロボットのワークショップや技術に触れる体験を提供する。機械・電子・プログラミングなど幅広い分野へ興味を持ってもらう機会にする。当団体が開発した工作キットで行う。 ②. 子供から大人まで幅広い世代の市民の皆様へ科学技術、ロボットに触れる機会を提供する。企業の方との連携した、常設展示エリア、LT スペース（プレゼンテーションステージ）なども用意する。 ③. ものづくり相談スペース、デジタル工作機械ものづくり体験コーナーを設置し、DIY などの身近なものづくりから機械・電子工作の領域まで幅広い世代の市民の作りたいという想いを支援する。当団体の工作機械や電子基板を作る技術を提供する。当イベントでは、体験コーナーのみ参加費を徴収する。また工作機械による加工が当日中に製作が終わらないもの、運搬できない工作機械を使用する必要がある場合は、機械のある当団体の事務所で後日製作し郵送する。その場合は、送料を参加費に含めて徴収する。 ④. Matsudo Tech LAB の告知を行う。（HP、X、YouTube、Instagram、Quita、ニコニコ動画、Facebook、チラシ、ポスター）などで広報活動を行う。 ⑤. Matsudo Tech LAB で安全、円滑に進行できるよう前もってワークショッ	

	プ向けロボット工作キットの開発や安全管理体制の確認を行う。 2 スケジュール	
	実施月	具体的な取り組み 実施体制、対象、場所など
	2026/ 4	事業の広報、組織体制の確認、活動準備④⑤ 市民センターのフリースペース 会議室全面 構成員のみ
	2026/ 5	広報、体験会の工作キット開発、検討、参加団体、企業との打ち合わせ④⑤ 市民センターのフリースペース 構成員
	2026/ 6	広報、開催準備④⑤ 市民センターのフリースペース 構成員
	2026/ 7	広報、Matsudo Tech Lab 1 回開催①②③④⑤ 松戸市民交流会館すまいるホール 全面 構成員、市民
	2026/ 9	広報、体験会工作キット開発、検討、参加団体、企業との打ち合わせ④⑤ 市民センターのフリースペース 構成員
	2026/10	広報、開催準備④⑤ 市民センターのフリースペース 構成員
	2026/11	広報、Matsudo Tech Lab 第 2 回開催①②③④⑤ 松戸市民交流会館すまいるホール 全面 構成員、市民
既存の事業から ステップアップ する部分 （ステップアップ 助成のみ）		
事業従事者数	6 人	
事業の目標	年に 2 回『Matsudo Tech LAB』を開催すること。 ① 小中学生対象ワークショップ 1 回に 10 人から 20 人 後のアンケート 良い評価を 7 割以上 ② 幅広い世代の市民対象、科学技術・ロボット展示スペースなど 1 回に 60 人前後 後のアンケート 科学に対する将来への期待 7 割以上 ③ 幅広い世代の市民対象、ものづくり支援 1 回に約 15 人前後 後のアンケート 楽しかった、勉強になった 7 割以上	
今後の展望	かつては技術大国だった日本のロボット研究・開発は、世界に後れをとっていると言われている。この状況を打破するため、私たちは松戸市から新たな取り組みを開始したい。ロボットに興味を持ってもらい、自ら手を動かしてものづくりをする子どもたちを増やしたいと考えている。そして、「松戸ロボット研究会」が開催するワークショップを通じて、この地域からロボットに興味を持つ子どもたちをさらに増やし、将来的に日本のロボット技術を牽引する人材を輩出することを目指す。彼らが将来開発するロボットによって、現在日本が直面している人手不足などの様々な社会課題を解決し、より豊かな社会を築いてほしい。また私たちも築いていきたいと思っている。そして将来的には、これらの活動を通じて、松戸市を日本のロボット開発の中心地へと発展させていければと考えている。	

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	イベント参加費	¥ 18,200	デジタル工作機械ものづくり体験コーナー参加費 3Dプリンター100グラム以内 100mm×100mmまで600円 見積もり15回 フライス加工一回700円 見積もり 6回 当日中に作り終えない制作物 7回分 送料 5000円
	寄付金	¥ 30,080	寄付金
	自己資金の合計額 (A)	¥ 48,280	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 148,280	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	¥ 18,800	施設利用料12h×2回 交流会館すまいるホール全面
	印刷製本費	¥ 3,000	チラシ、パンフレット各150部
	通信運搬費	¥ 11,600	イベント告知のためのサイト維持費／一年間 6600円 デジタル工作機械ものづくり体験コーナー 当日中に作り終えない制作物 7回分 送料 5000円
	消耗品費	¥ 114,880	(参加者持ち帰り用) 小中学生向けロボット工作ワークショップの部品 ものづくり支援、FAB LABで使用する材料 基盤 1枚200円を30枚 6000円 超音波距離センサー1個300円を35個 10500円 ミニサーボモーター1個200円 70個14000円 3Dプリンター用フィラメント 1 Kg5000円を4個 20000円 フライス盤用板金材料 アルミ 1枚1000円を10枚 10000円 のぼり旗 8000円 スタッフ用Tシャツ 2500円×4人 10000円 横断幕各コーナーに設置 1枚3000円×4枚 イベント用バナースタンド3000円 1枚 プログラミング物体検知ワークショップ用の ウェブカメラ1台5000円 カメラで熱を見てみようワークショップ赤外線カメラ 赤外線カメラ一台4980円 会計盆700円 受付プレート3000円 二画面電卓3000円1台 小銭入れ4000円 領収書700円
	対象経費の合計 (D)	¥ 148,280	
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 148,280	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

No. 1 0

《 協働事業 》

2050 年ゼロカーボンシティまつどへの
機運醸成事業

一般社団法人銀座環境会議

環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室

事業計画

	事業名	2050 年ゼロカーボンシティまつどへの機運醸成事業
	団体名	一般社団法人銀座環境会議
	事業担当課	環境政策課ゼロカーボンシティ推進担当室
事業概要		
松戸市環境未来会議 OBOG 会メンバーと連携することで、同会議で提示された市民アクションを実践し、同プランを普及させ、2050 年ゼロカーボンシティ松戸への機運を醸成する。同会議の OBOG 会メンバーと連携し、「(仮) まつど環境みらい会議」を新たに立ち上げる。まず 26 年度は関心の高かった使い捨て容器削減に向けて、市内事業者には“給水スポット”“マイ容器スポット”になってもらう取り組みを実施する。		
松戸市の課題	市は 2050 年ゼロカーボンシティ実現を目指す一環として、2023 年度～2025 年度と 3 年に渡って市民参加の「松戸市環境未来会議」を開催し、市民の脱炭素アクションを模索している。これまで同会議の中で市民が提案した、身近な取り組みを中心とした取り組み案は、まとめられ、冊子にするなどして、市の公式サイトや広報まつど等で発信している。参加者に大きな気づきを与えている同会議だが、2050 年ゼロカーボンシティ松戸の達成に向けた市全体の機運を高めていくには、以下の課題がある。 ① 従来の発信で会議の成果を多くの市民に届けていくのは容易でない。 ② 最終的には個々人や個々の事業者が実践する取り組みであっても、点だけでは市民、市内事業者、行政が一体となった運動になっていかない。	
事業の目的	① 市民が自らできる脱炭素に向けた行動を市内に広げること ② ①を通じて、松戸市環境未来会議で作上げた「ゼロカーボンアクション」の取り組みの周知と実践を進めること ③ ①②を通じて 2050 年ゼロカーボンシティまつどの実現への機運を醸成すること	
事業内容	1 事業内容 事業は複数年度を予定しており、1 年目となる令和 8 年度は、市が主催であった「松戸市環境未来会議」の OBOG 会メンバーと連携し、「(仮) まつど環境みらい会議」を新たに立ち上げる。「松戸市環境未来会議」の取組として挙げられた容器の削減等を本事業で 1 年目に実践して 2 年目以降の実施内容を議論・検討する。 【令和 8 年度実施の活動について】※詳細なステップはスケジュール参照 ① 市内事業者に協力を呼びかけ、マイボトル持参の市民に対して無料で水道水を提供する“給水スポット”テイクアウト等で持参容器への提供を行う“マイ容器スポット”になってもらう。 目標数（50 件）の達成に向けては、まず(仮) まつど環境みらい会議のメンバーそれぞれのよく利用する/友人・知人が経営する店舗や事業所への声がけから始める。その後はスポットとなった事業者からの発信を足掛かりに関	

心層からのアプローチを待つとともに、それらの事業者が所属する商店会等へのアプローチを行う。関心のある事業者には、店舗等実際に足を運び、活動の説明及びステッカー等の配布を行う。また、ちいき新聞や新聞の地方版等のローカルメディアにもアプローチする。

- ② それらの給水スポット及びマイ容器スポットをマップに落とし、市民に情報提供する。(仮) まつど環境みらい会議、松戸市、及び共感した市民による SNS 等での発信を通じて認知度を高める。

これを通じて使い捨てのプラスチック容器を削減し、市民の 2050 年ゼロカーボンシティまつど実現への意識醸成に資するものとする。

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4 月	会議体(仮) まつど環境みらい会議実施体制を結成	実施体制：構成員、松戸市環境未来会議 2023～2025 に参加した O B・O G 及びファシリテーター、大学生、高校生、場所：市内公共施設
5 月	専門家を招いて会議体メンバー向けの研修を実施する。内容は録画し、後からの参加者にも共有する	実施体制：会議体(仮) まつど環境みらい会議、外部講師、対象：会議体メンバー 場所：市内公共施設
5 月	給水スポット及びマイ容器スポットの活動についての市民への呼びかけ動画、チラシの作成 完成次第、市内事業者への参加呼びかけ開始 給水スポットマップへの登録	実施体制：(仮) まつど環境みらい会議 場所：市内公共施設 実施体制：(仮) まつど環境みらい会議、対象：飲食店等を中心とした市内事業者 実施体制：(仮) まつど環境みらい会議、既存のスポットマップの活用、登録活動
6 月	世界リフィルデーに向けて、集中的にスポットを活用して SNS 発信する、参加するお店からも SNS 発信してもらうなどの情報発信強化	実施体制：(仮) まつど環境みらい会議、スポットとなった市内事業所 対象：市民
6 月	次年度(2027 年度)以降の活動を検討開始	実施体制：(仮) まつど環境みらい会議

	1 1 月	市主催イベントに仮設給水機を設置し市民に本事業及び松戸市環境未来会議と同会議成果物（ゼロカーボンアクションまつど）についてアピール、同時にアンケート実施	実施体制：（仮）まつど環境みらい会議 対象：市民 場所：仮にモリヒロフェスティバルを想定（イベント趣旨に鑑みて、会議体で適切なイベントを選ぶ） アンケート：マイボトル使用やスポットが欲しい場所等について
	2 月	ウェブでのスポット人気投票と上位スポットへの記念品進呈、情報発信	（仮）まつど環境みらい会議 市内事業者
<通年活動> ○会議体がスポットを拡大し、スポット、マップについて SNS 等で情報発信 ○大学・高校、市民活動団体、一般市民に呼びかけ、会議体メンバー増強			
事業の目標	① 会議体のメンバー20名の参加 ② 給水マップ閲覧数 1,000 回 ③ SNS 発信 50 回 ④ 給水スポット 50 件新規登録 ⑤ マイ容器スポット 50 件新規登録 ※④との重複はあり 50 回の SNS 投稿については、例えばInstagramを活用するので「インサイト」など、分析ツールでそれぞれ閲覧数を確認する。また、給水スポットの使用率については、5 店舗程度に 3 か月程度記録を依頼して確認する。		
協働の必要性 （団体）	2050 年ゼロカーボンシティ松戸の実現には、市民、事業者、行政の総力を挙げた取り組みが必要である。そして、それは 3 者がそれぞれに頑張ろう、ということではなく、協働による相乗効果が必要不可欠である。個人の取り組みはともすると「個人がコツコツと」に収斂してしまいがちであり、これを大きなうねりにしていくには、多くの市民への呼びかけと事業者の協力が必要であり、それには市の発信力と信用が大きな推進力となる。		
協働の必要性 （市）	環境未来会議開催による市民の脱炭素意識の向上を実際のアクションに繋げる好例となり、2050 年ゼロカーボンシティまつどの実現に向けた市民参加促進の一助となる。実務面においても、市は発信力や信用があるが、ウェブ上での登録で事足りるタイプの事業と異なり、本事業では事業所に足を運んでの遣り取りが必要であり、団体及び多くの市民の協力が必須である。		
事業実施の役割分担	① 団体：事業全体の実施、進捗管理、会計管理 ② 担当課：動画・チラシ作成における助言・協力、マップの作成における協力、イベントでの協働、事業の発信		
今後の展望	上記の通り、協働事業 2 年目以降の活動については本事業を実施しながら（仮）まつど環境みらい会議で検討していく。 協働事業 2・3 年目、協働事業終了後の使い捨て容器の削減事業については、チラシや動画等本事業のレガシーを活用しつつ、追加的費用が必要については千葉環境財団のちば環境再生基金等の助成金の活用を検討する。		

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 352,928	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 55,080	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 55,080	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 315,720	
合計額 (D) = (B + C)		¥ 370,800	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	外部講師謝礼 20,000円×1回（リフィル活動の意義について）
	消耗品費	¥ 25,000	給水スポット大賞賞品 5,000円×5スポット
		¥ 48,000	広報物 給水スポットステッカー&ポスター120円×200枚 マイ容器スポットステッカー&ポスター120円×200枚
	印刷製本費	¥ 2,500	チラシ印刷 5円×500枚
	委託料	¥ 138,000	動画作成 動画制作 55,000円 撮影（6h以内） 33,000円
			チラシデザイン 20,000円×1回
			ウェブサイトデザイン 30,000円×1回
	使用料及び賃借料	¥ 64,400	水道直結型仮設給水機 3泊4日基本料金35,000円、冷却器オプション25,000円
			会場使用料 4,400円（4時間利用）×1回
	通信運搬費	¥ 52,900	チラシ送付用 レターパック430円×30箇所
水道直結型仮設給水機 往復送料40,000円			
対象経費の合計（E）		¥ 350,800	
（その他経費）	交通費	¥ 10,000	構成員イベント参加時他 250円×往復×20回 交通費
	食糧費	¥ 10,000	打ち合わせ計13回のお茶、茶菓子代
	その他経費の合計額（F）	¥ 20,000	
合計額（G）＝（E＋F）		¥ 370,800	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×1076円
	打ち合わせ（動画、チラシ内容策定）	32,280 円	5 人 × 3 h × 2 回 × 1076 円
	動画の撮影	16,140 円	3 人 × 5 h × 1 回 × 1076 円
	スポット開拓作戦会議	32,280 円	5 人 × 2 h × 3 回 × 1076 円
	スポット開拓方法説明会	9,684 円	3 人 × 1 h × 3 回 × 1076 円
	スポット開拓	32,280 円	10 人 × 1 h × 3 回 × 1076 円
	スポット情報発信	16,140 円	10 人 × 0.5 h × 3 回 × 1076 円
	スポット登録方法説明	3,228 円	3 人 × 1 h × 1 回 × 1076 円
	スポット登録	32,280 円	2 人 × 0.3 h × 50 回 × 1076 円
	大学生、高校生勧誘作戦会議	32,280 円	5 人 × 2 h × 3 回 × 1076 円
	リフィルデー作戦会議	10,760 円	5 人 × 2 h × 1 回 × 1076 円
	市主催イベント打ち合わせ	12,912 円	4 人 × 3 h × 1 回 × 1076 円
	市主催イベント参加	60,256 円	4 人 × 7 h × 2 回 × 1076 円
	次年度活動打ち合わせ	48,420 円	5 人 × 3 h × 3 回 × 1076 円
	スポット大賞選考	10,760 円	5 人 × 2 h × 1 回 × 1076 円
	スポット大賞情報発信	3,228 円	1 人 × 3 h × 1 回 × 1076 円
合 計 (A)		352,928 円	

事業の実施体制

事業従事者数	10 人
--------	------

従事者	事業における主な役割
A	事業全体統括、渉外、会計、動画・チラシ作成、スポット登録方法説明、スポット開拓、スポット情報発信
B	渉外、会計、動画・チラシ作成、スポット登録、スポット開拓、スポット情報発信
C	スポット開拓、スポット情報発信
D	スポット開拓、スポット情報発信
E	動画・チラシ作成、スポット開拓、スポット情報発信
F	動画・チラシ作成、スポット開拓、スポット情報発信
G	スポット開拓、スポット情報発信
H	動画・チラシ作成、イベント参加、スポット開拓、スポット情報発信
I	動画・チラシ作成、イベント参加、スポット開拓、スポット情報発信
J	スポット登録、イベント参加、スポット開拓、スポット情報発信

No. 1 1

《 ステップアップ助成 》

介護予防運動指導者養成事業

クロダマハウス

事業計画書

事業名	介護予防運動指導者養成事業
団体名	クロダマハウス

事業概要
介護予防運動指導者養成研修等の参加希望者を募集し、イキイキ運動教室のノウハウ（筑波大学が認知症予防・転倒予防用に開発したスクエアステップ エクササイズを中心にクロダマハウスが構築した運動プログラム）を提供して効果のある指導で松戸市の高齢者を元気にする。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	・各地で行われているフレイル予防は終始椅子に座ったプログラムで効果が薄いと感じている。 ・優秀な運動指導者を養成して効果のあるフレイル予防教室が開催出来る人材を養成し、松戸市の高齢者を元気にする。									
事業の目的	・効果のあるフレイル予防運動プログラムを介護予防運動指導者養成研修等で提供して、運動指導者の品質を高める。 ・介護予防運動指導者養成研修等を受講した指導者が松戸市内でフレイル予防教室を開催して健康寿命延伸の一助を担う。 ・イキイキ運動矢切教室の指導者候補を養成（メイン・サブコーチ）する。									
事業内容	1 事業内容 ① 介護予防運動指導者養成研修の参加者とイキイキ運動矢切教室の体験者を募るチラシを作成する。 ② 介護予防運動指導者養成研修と体験希望者への会を無料で開講する。 ③ 介護予防運動指導者養成研修の参加者に、イキイキ運動矢切教室で実地研修を開講し、運動指導のノウハウを提供する。 ④ 介護予防運動指導者養成研修と実施研修を受講した参加者からスクエアステップ指導者資格（指導員講習会費用 22,000 円、指導員講習会登録認定料 5,500 円が必要）の取得希望者には、スクエアステップ協会開催の研修を受講してもらい、イキイキ運動矢切教室のコーチに抜擢する。 ⑤ 介護予防運動指導者養成研修と実地研修を受講した参加者で新規に教室開設希望者には、フレイル予防教室開設のサポートを実施する。具体的にはチラシ、パンフレット作製方法、告知方法（挨拶回り等）、教室会場探し、準備品（出席簿、月謝袋、レクリエーション備品等）運営に係るノウハウを提供する。 ⑥ 教室開設希望者には、団体が主催するイキイキ運動教室の運用に則ってフレイル予防教室を実施できるようリハーサルを実施する。その後、週 1 回 75 分月会費 3 千円（月 4 回会員）の有料教室（実費相当分）を運営する。そして、介護予防運動指導者養成研修と実地研修を受講した参加者から松戸市内でフレイル予防教室を 3 カ所以上で開催する。 2 スケジュール <table><tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr><tr><td>4 月</td><td>介護予防運動指導者養成研修等のチラシ募集…①</td><td>実施体制…クロダマハウスが作成、委託会社に配布依頼</td></tr><tr><td>5 月</td><td>介護予防運動指導者養成</td><td>実施体制…クロダマハウス、</td></tr></table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4 月	介護予防運動指導者養成研修等のチラシ募集…①	実施体制…クロダマハウスが作成、委託会社に配布依頼	5 月	介護予防運動指導者養成	実施体制…クロダマハウス、
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など								
4 月	介護予防運動指導者養成研修等のチラシ募集…①	実施体制…クロダマハウスが作成、委託会社に配布依頼								
5 月	介護予防運動指導者養成	実施体制…クロダマハウス、								

	6 月	研修とイキイキ運動矢切教室の体験希望者への会開催（計 3 回実施）…②	対象…研修参加者、教室体験希望者 場所…まつど市民活動サポートセンター
	6 月 7 月 8 月 9 月	イキイキ運動矢切教室で 実地研修開催（計 4 回実施）…③	実施体制…クロダマハウス 対象…介護予防運動指導者養成研修を受講した参加者 場所…まつど市民活動サポートセンター
	10 月 11 月	スクエアステップ指導員講習会受講案内（計 2 回実施）…④	実施体制…スクエアステップ協会 対象…介護予防運動指導者養成研修と実地研修の参加者でスクエアステップ指導員講習会受講希望者 場所…筑波大学他
	10 月 11 月	フレイル予防教室開設のサポート（計 2 回実施）…⑤	実施体制…クロダマハウス 対象…介護予防運動指導者養成研修と実地研修を受講した開設希望者 場所…まつど市民活動サポートセンター
	1 月 2 月	市内でフレイル予防教室のリハーサル開催（計 2 回実施）…⑥	実施体制…クロダマハウス 対象…介護予防運動指導者養成研修と実地研修を受講した開設希望者 場所…まつど市民活動サポートセンター
既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）	・広報費用がなくイキイキ運動矢切教室の告知が、ほとんど出来ていなかったことが解決できる。 ・松戸市のフレイル予防教室が開催できる優秀な人材を多く養成出来る。 ・イキイキ運動矢切教室のメイン・サブコーチの養成が出来る。 ・介護予防指導者育成研修と実地研修を受講した参加者から松戸市内でフレイル予防教室を 3 カ所以上で開催する。		
事業従事者数	3 人		
事業の目標	・介護予防指導者養成研修等の参加者 10 人以上 ・イキイキ運動教室の体験者 10 人以上 ・スクエアステップ指導者資格取得者 2 人以上（スクエアステップ指導者資格取得者にイキイキ運動教室と同様の運動教室を開設してもらう）		
今後の展望	・介護予防指導者養成研修等を受講した参加者の中からイキイキ運動矢切教室のメイン・サブコーチ候補者を養成し、イキイキ運動矢切教室の担当を担えるようにする。 ・介護予防指導者養成研修等を受講した参加者が市内でフレイル予防教室を開催出来るようにクロダマハウスのサポート体制を継続し、市内の教室数を増やす。 ・フレイル予防教室を開設出来る人材を多く養成して松戸市の介護予防に貢献する。		

事業の予算概要

【収 入】

(単位：円)

科 目		金 額	積算内訳
団 体	団体の拠出金	¥ 90,630	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 90,630	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 270,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 360,630	

【支 出】

科 目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 95,090	募集チラシ作成費 (A4・5万枚)
	委託料	¥ 203,500	募集チラシ折込費 (A4・5万枚) 3.7円×5万×消費税
	使用料及び賃借量	¥ 7,040	研修会場賃借料 220円×8時間×3日間=5,280円 フレイル予防教室開設講習会、会場賃借料 220円×4時間×2日間=1,760円
	対象経費の合計 (D)	¥ 305,630	
その他経費	スクエアステップ指導員講習会費用	¥ 44,000	講習会費用22,000円×2名
	スクエアステップ指導員講習会登録 認定料	¥ 11,000	認定登録料5,500円×2名
	その他経費の合計 (E)	¥ 55,000	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 360,630	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

